

各関係機関長 殿  
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病害虫防除所長  
(公印省略)

平成21年度農作物病害虫発生予察情報について

平成21年度農作物病害虫発生予察特殊報第2号を発表したので送付します。

平成21年度農作物病害虫発生予察特殊報第2号

平成21年11月10日  
徳 島 県

1 病害虫名

キク茎えそ病(Chrysanthemum stem necrosis virus : CSNV)

2 発生作物

キク

3 発生地域

徳島県海陽町

4 発生の経過状況

平成21年10月に徳島県海陽町で栽培されているキク(品種:神馬)に、茎や葉にえそ症状を表す株が出現した。当センター病害虫担当においてRT-PCR法(広島県立総合技術研究所農業技術センターで設計されたプライマー使用)により検定したところ、Chrysanthemum stem necrosis virus(CSNV)が検出され、キク茎えそ病の発生が確認された。

キク茎えそ病は、平成18年に広島県で初めて確認された後、九州、中国、四国、中部、関東、東北の各県で相次いで確認されている(現在12県)。四国では平成21年8月に香川県で発生が報告されている。

5 被害の特徴等

1)病徴

茎に明瞭なえそ症状(図1)、葉には退緑・えそ症状(図2)を生じ奇形となる葉も見られる(図3)。

TSWV(Tomato spotted wilt virus)によるキクえそ病に酷似しており、病徴からの診断は難しい。

2)伝染方法

本ウイルスは、TSWV(キクえそ病)と同じTospovirus属のウイルスで、主にミカンキイロアザミウマによって媒介される。本虫は孵化後間もない1齢幼虫が罹病植物を吸汁することでウイルスを獲得し、永続的に伝搬する。また、感染親株からの挿し穂等によっても伝染するが、種子伝染や土壌伝染はしないと考えられている。

3)寄主植物

キク以外では、トマトへの感染報告があるが、本県では現在のところ確認されていない。

## 6 防除上の注意等

媒介昆虫であるミカンキイロアザミウマを防除する。特に、親株での防除を徹底する。圃場周辺雑草はミカンキイロアザミウマの繁殖場所になるので、除草を徹底する。施設の開口部には防虫網を張り、ミカンキイロアザミウマの侵入を防ぐ。発病株は見つけ次第抜き取り、土中に埋めるか焼却する。また、かいた芽や葉も圃場内に放置しない。発病していない株も無病徴感染している可能性があるため、発生圃場では無病親株に更新する。収穫後の残さの処理を徹底するとともに、栽培終了後は施設の密閉処理(蒸し込み)等を行ない、ミカンキイロアザミウマを死滅させ、施設外への分散を防ぐ。



図1 茎と葉に現れたたえそ症状



図2 葉に現れた退緑症状とえそ症状



図3 葉に現れた奇形症状

(写真提供：美波農業支援センター)